第260号
受 30.5.16 付
議会事務局

第1号様式・その1(第4条関係)

戸田市議会研修・視察報告書(会派名： 平成会)

H.30年 5月16日

三浦芳一 議長 様　　報告者氏名 峯岸義雄

実施日	平成30年4月24日(火) ～ 平成30年4月25日(水)　1泊2日
参加者	1 山崎雅俊　6 2 斎藤直子　7 3 峯岸義雄　8 4 林冬彦　9 5　10　合計 4 人
視察先・目的	視察先　目的 1 戸田市保養所「白田の湯」 2 神奈川県寒川町役場 3 4 5 6 (目的については別紙参照)
宿泊場所	1 戸田市保養所「白田の湯」 2 3
費用	宿泊費(1泊1食) √13,520円　夕食代 √8,200円 交通費 √46,880円　昼食代 √16,952円 その他 √1,300円　合計 86,852円

平成会　会派視察

調査日　2017年7月11日（火）
訪問場所　戸田市保養所「白田の湯」
調査項目　「白田の湯」のあり方について
参加議員　山崎雅俊　峯岸義雄　林冬彦　斎藤直子

（1）　視察目的

指定管理者制度で運営している「白田の湯」の維持管理について、今後どのようなあり方をしていくべきか、市民に案内している施設等も合わせて現地視察。

（2）　概　要

◇　指定管理者の取組みについて

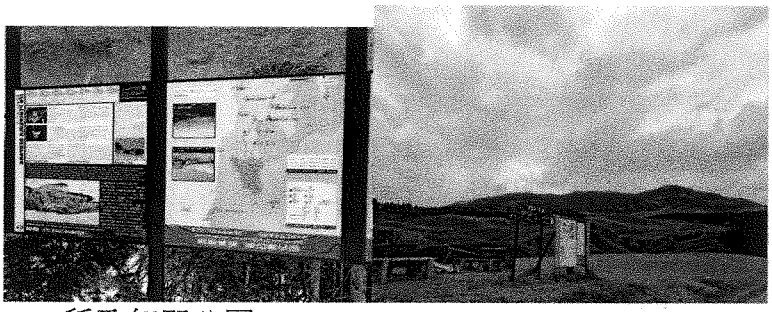
昭和44年8月より設置され、平成5年に現在の建物に建替えられる。
平成13年度まで市の直営として運営される。
平成14年度～18年度まで、（株）伊豆急コミュニティーに運営業務委託。
平成19年度～33年度まで、企画提案方式による入札にて指定管理者として（株）伊豆急コミュニティーが選定される。

平成14年度より、委託、指定管理者として関わる中で、委託料9,806万円から、現在の指定管理料として平成28年度は8,472万円になるなど、状況報告の資料は、市民生活常任委員会に提出された「戸田市保養所 白田の湯施設及び運営の経過について」「平成28年度指定管理者制度導入施設の状況報告について　戸田市保養所 白田の湯」「戸田市市民アンケート公共施設等の今後のあり方を考える結果報告」を持参し、はじめに簡単に平成会より説明しながら、意見交換を行うかたちとなった。

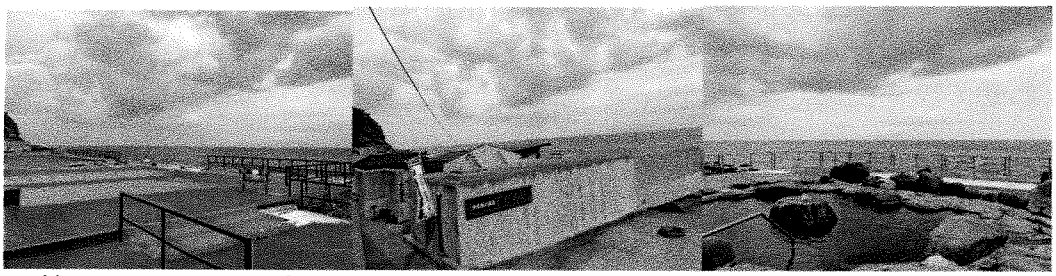
指定管理者より用意された資料は、白田の湯のパンフレットと利用者案内、客室の全面禁煙化のお知らせ、食事の献立や特別メニューの紹介チラシ、バスツアーや見学会、熱川シーサイドプール山菜採りなどイベント案内で、取組み状況や成果などの説明を受ける。

また、伊豆稲取の雛の館、稲取細野公園、熱川シーサイドプール、館内禁煙ルーム等に案内いただき現地で説明を受ける。

雛の館



稲取細野公園（山菜採りや秋のすすき・奥に風車）



熱川シーサイドプール　（露天風呂付使用料金で戸田市民は利用）

館内喫煙室

浴衣選びサービス

伊豆急全線ウォーク完歩賞
（オリジナルピンバッチ）

◇　取組んできた成果について

白田の湯を拠点に伊豆の魅力を知ってもらうため、近隣の施設との連携をとることにより、すべての世代に利用しやすくすることと同時にリピーターを増やす努力をしてきた。

バスツアーも茶摘み体験や山菜採りなど体験型を盛り込み、好評ではある。

夏休みの自由研究にむけての提案や、海を苦手とする子供達に特に人気の熱川シーサイドプールは、露天風呂も隣接し、戸田市民・在勤者限定は、割安で利用可能となるよう熱川観光協会に交渉したとのこと。

館内においても、客室の全面禁煙にし、喫煙コーナーを設置。今のところ不満の声は上がっておらず、満足いただいている。

昨年度は、１万人を超える利用者となったことから一応の成果が上がったと考えているとのこと。

ピーク期の割増料金の設定は、公共の福祉施設という観点からそぐわないと考えている。

◇　今後の課題について。

- 現在約７割の稼働率において、17 部屋、65 人定員の稼働率を上げることに限界もある。素泊まりの方においては、無料の利用となることもある。できる限り、地域の食材を活かしたメニューや期間限定料理を充実していく。
- 利用者 11,000 人の目標に至っていないので、まずは、達成に向け努力。
- バスツアーの申し込みはあるものの人数が満たない場合もあるのが現状。

（３）　所　感

平成 33 年度までに、今後の保養所のあり方をどうするか、建物の建て替えの必要性はなくても、リニューアルや温泉の維持管理については計画的に行わなければならないと感じた。現在約７割の稼働率において、17 部屋、65 人定員の稼働率を上げることに限界もある。自治体として保養所を持つことが、ステータスであるとの話があったが、市民の要望があってのこと、存在も知らない市民もいることからアンケート調査をするべきだと思った。

会派からも、町民との双方向の交流や、他の宿泊施設と併用できるような取組み、現地の足となってもらえるツアー、ゴルフツアーなどの提案も行ってきた。

平成30年5月16日（水）

寒川町議会視察報告（報告者：林冬彦）

日時　平成30年4月25日（水）
場所　寒川町役場本庁舎３階第１委員会室

出席：（戸田市平成会）山崎雅俊、斎藤直子、峯岸義雄、林冬彦
（寒川市）太田真奈美（議長）、黒沢善行（議運委員長・議会改革委員長）
新藤聡（議会事務局長）、大八木清勝（議会事務局次長）

テーマ：議会のICT化及びタブレット端末の導入・活用について

視察内容：

寒川町議会は、議会資料の完全ペーパレス化を目的に、神奈川県で最初に議会のタブレット端末（iPad）の導入に踏み切った議会である。採用したアプリは「moreNOTE（富士ソフト）」（戸田市議会でも今年度中のタブレット導入を検討しているが、その候補のひとつである）。導入の結果、約10万枚の議会資料の削減という成果を実現している。

視察においては、寒川町よりまちの概要紹介がされた後、戸田市議会平成会山崎幹事長から戸田市の概要紹介があり、その後、テーマ「議会のICT化及びタブレット端末の導入・活用」について、寒川町の説明に移った。

説明にあたっては、パワーポイント資料が用意された。その内容は添付資料の通りである。

添付資料目次：

1．タブレット端末導入の経緯
・議会改革の計画的な推進体制を構築
・端末導入の検討理由・導入方針
・導入時のコスト削減見込み

2．導入スケジュール
・導入検討～正式運用へのプロセス
・端末の導入経緯・選定
・端末の運用体制

3．moreNOTEの操作方法
・ログイン方法
・フォルダ階層の設定
・議員への「お知らせ」機能等
・議員の「個別フォルダ」
・年次フォルダの階層
・カレンダー連携機能

説明において特筆すべきは次の３点であった。

（1）タブレットの操作は用意であり、基本同じ操作の繰り返しであったため、90歳ちかくなる議員（当時）であっても覚えることができ、全議員が活用するようになった。
（2）タブレットパソコンから印刷する機能も不可としたため、完全ペーパレスとなり、印刷費用と資料用意の時間的・金銭的コストの大幅削減に繋がった
（3）富士ソフトはソフト制作会社である強みを活かし、寒川町議会の現場の意見を積極的に採用し、アプリの機能拡張に努めてくれた（現在も続いている）。そのため、とても使いやすいアプリに進化しているという実感がある。

寒川町議会の説明の後は、質疑応答に移行した。

Q1　A4版の大きさのiPad導入は検討しなかったのか？
A1　持ち運びやすさと費用を考慮してB5版とした。資料もこのサイズに最適化されるよう作り方を変えた。

Q2　タブレット操作に慣れない方への教育は別途やったのか？
A1　やっていない。単純な操作の繰り返しなので、慣れていった。

Ｑ３　議会中継・録画の動画もみることができるのか？
Ａ３　できる。以前はできなかったが、昨年度、議会ホームページにマルチデバイスを採用した。

Ｑ４　全議員宛に送った案内等の既読確認はできるのか？
Ａ４　議員側にはチェックは付かないが、事務局側では誰が何の案内や資料を読んだかは把握できるようになっている。

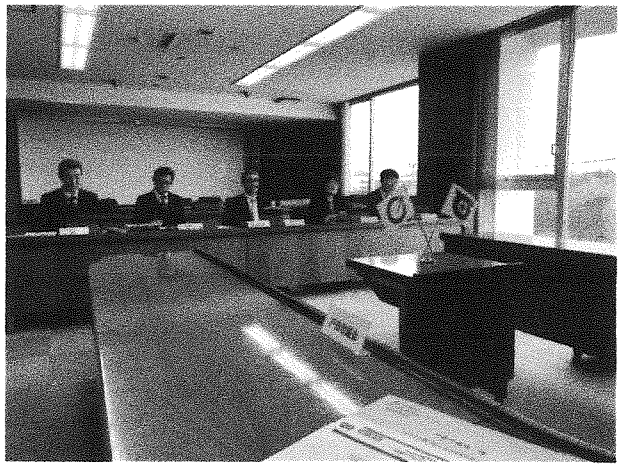
Ｑ５　傍聴者への対応は（タブレット貸与はあるのか）？
Ｑ６　傍聴者用に貸与タブレットを２台用意している

Ｑ７　データはクラウドに入れているということだが、その容量は？
Ａ７　現在、20GBである。当初５GBであったが使い切ってしまった。

Ｑ８　カレンダー機能はあるのか
Ｑ８　寒川町議会からの要望で、標準装備してもらった。ただし、各人がもっているスマホにあるカレンダーと同期する機能はない

Ｑ９　各議員のパケット管理はどうなっているのか？
Ａ９　現時点では上限を超える使用はない。月間4500円のうち、1500円分は各議員の政務活動費から支出いただいている。

以上、質疑を終え、閉会の挨拶となった。



第559号
受 30.8.20 付
議会事務局

第1号様式・その1(第4条関係)

戸田市議会研修・視察報告書(会派名： 平成会)

H.30年8月20日

三浦芳一 議長 様　　報告者氏名 峯岸義雄

実施日	平成30年7月23日(月) ～ 平成30年7月24日(火)　1泊2日	
参加者	1 伊東秀浩　6 2 小崎雅俊　7 3 斉藤直子　8 4 峯岸義雄　9 5 林冬彦　10　　合計 5 人	
視察先・目的	視察先　目的 1 北海道小樽市立稲穂小学校　・コミュニティ・スクールについて 2 札幌市役所　・札幌市のパークゴルフ管理運営について 3 4 5 6	
宿泊場所	1 スーパーホテル札幌すすきの 2 3	
費用	宿泊費(1泊1食) 42,000 円	夕食代 25,000 円
	交通費 265,500 円	昼食代 14,510 円
	その他 5,184 円	合計 352,194 円

平成30年8月3日（金）

小樽市立稲穂小学校視察報告（報告者：林冬彦）

日時　平成30年7月23日（月）
場所　北海道小樽市立稲穂小学校校長室(小樽市富岡１丁目５番１号)

出席：（戸田市平成会）伊東秀浩、山崎雅俊、斎藤直子、林冬彦
（稲穂小学校）田中賢一（校長）、及川年彦（教頭）、藤平繁範（事務主幹）

テーマ：コミュニティ・スクールについて

◆ 視察内容：

稲穂小学校の田中校長は、北海道教育委員会在任時には、道内におけるコミュニティ・スクール導入を進めてきた担当責任者であり、小樽市でもっとも歴史のある小樽市立稲穂小学校が小樽市で初めてのコミュニティ・スクール制度導入校になることを受けて、校長として赴任されてきた方である。

稲穂小学校ではもともと地域の方々が学校ボランティアやPTAとして、学校の運営を支えてきたという歴史がある。コミュニティ・スクール制度導入にあたっては、新たに設置される「学校運営協議会」と既存のPTAや学校ボランティアをどう関連づけるか、地域といかに一緒になって学校運営を進めるか等を課題として、取り組みを進めてきた。

視察においては、田中校長より、稲穂小学校の概要紹介がなされた後、戸田市議会平成会伊東団長より戸田市の概要紹介があり、その後、テーマ「コミュニティ・スクール」について、稲穂小学校の説明に移った。

説明にあたっては、資料が用意された。その内容は添付資料の通りである。

＜添付資料目次＞

１．学校要覧（別添）
２．道教委　－　市教委　－稲穂小　教育目標の関連
３．稲穂小学校グランドデザイン
４．稲穂小学校　学校経営の基本方針
５．稲穂小学校学校経営組織
６．稲穂小学校キャリアパスポート
７．稲穂小学校PTA組織
８．小樽市学校運営協議会規則
９．稲穂小学校学校運営協議会委員
１０．第１回学校運営協議会　開催要項
１１．コミュニティ・スクール関連資料

説明において特筆すべきは次の５点であった。

（1）学校ボランティアを「サポート部」として、PTA組織に組み入れることにより、学校ボランティアにかかる費用をPTAの予算でまかなえるようにした（資料７ページ）。

（2）PTAと学校の両方にパイプをもつ人をコミュニティ・スクールの学校運営協議会の構成員とし、学校運営協議会と既存組織のコミュニケーションが円滑になるよう配慮した（資料９ページ）。

（3）学校経営組織を改編し（資料５ページ）、コミュニティ・スクールを担当する部署に「地域連携担当教諭」を配置し、学校と地域の間のコミュニケーションが円滑になるよう配慮した。

（4）北海道教育行政 小樽市教育行政 稲穂小学校 繋がりを教員に示し、自分たちの取り組みが北海道及び小樽市教育行政の中でどのような位置づけにあり、稲穂小学校では具体的に何を目指していくかの意思共有を図り、あわせて評価のために数値目標を設定した（資料２ページ）。

（5）コミュニティ・スクールの準備段階で地域の声を聴いていったところ、地域が稲穂小学校に望むことは「子供たちの『心を育てる』こと」だとわかり、その声をもとに、具体的に各学年各学期で身につけることをわかやすく表した「稲穂小学校キャリアパスポート(資料６ページ表裏)」を

作成し、それをもとに、保護者や中学校・幼稚園・保育園に稲穂小の取り組みをわかってもらう動きを進めてきた。

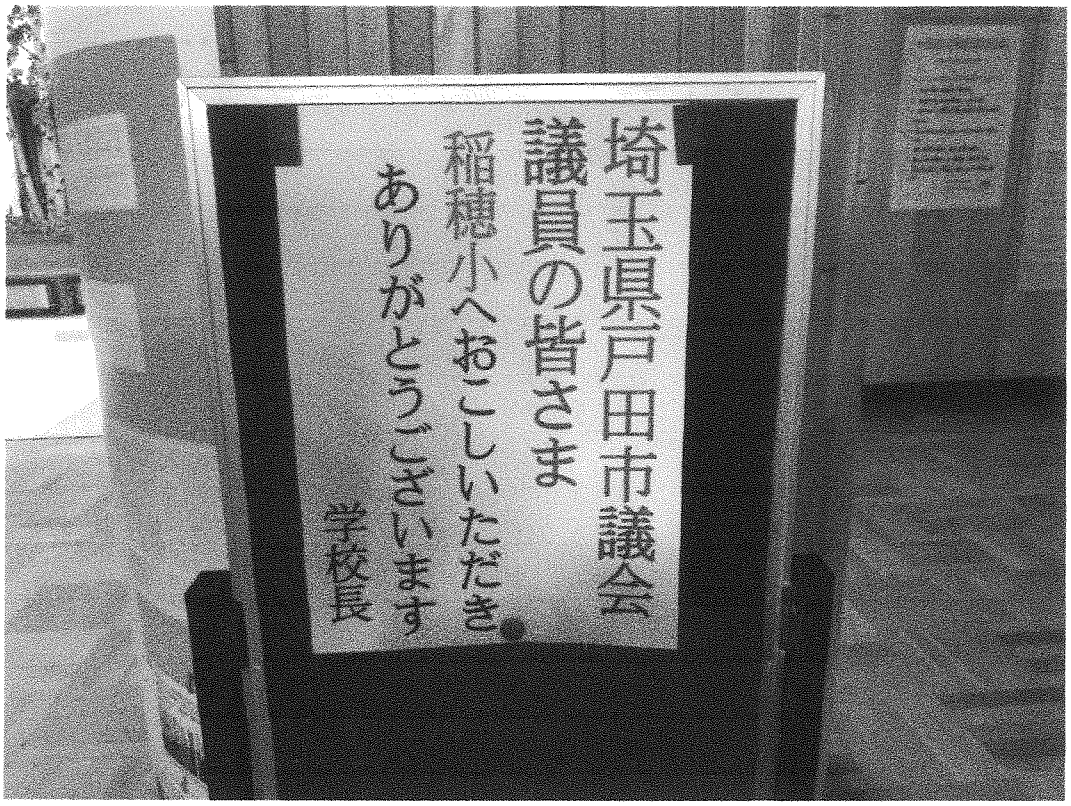
稲穂小学校の説明の後は、質疑応答に移行し、その後、校内見学を行い、閉会となった。

◆ 考察

戸田市のコミュニティ・スクールにおいても、PTA や学校ボランティアなどの既存組織とコミュニティ・スクール制度で新たに設けられた「学校運営協議会」の位置づけ・関連づけが、現場ではよく認識されていないという課題がある。稲穂小学校では、コミュニティ・スクール制度を念頭において、既存組織と学校の双方の組織改編を行ったことで、学校運営におけるそれぞれの位置づけやコミュニケーションを行う際の窓口がわかりやすくなった。これは戸田市においても参考になるであろう。

また、コミュニティ・スクール導入に向けての準備を行う過程で地域の声を集めた結果、地域が稲穂小学校に望むことは「子どもたちの『心を育てる』こと」であると認識し、それを各学年各学期で具体的にどんなことに取り組むことで育成を図るかを表した「キャリアパスポート」を作成した。これは「稲穂小学校が目指すこと」への理解を深めるために役立つものであり、これを地域や中学校・保育園・幼稚園と共有することで、一貫した教育になるよう図っている。コミュニティ・スクールの運営協議会でもこの「キャリアパスポート」をもとに熟議が行われ、地域とともにある学校づくりが進められている。戸田市のコミュニティ・スクールにおける熟議でも、この身につける力をわかりやすく表した「キャリアパスポート」のようなものを使うやり方が参考になるであろう。

小樽市立稲穂小学校においては、なによりも教員の方々が「なぜコミュニティ・スクールなのか」という問題意識を共有し、組織改編後の担当責任者が意欲的に各業務に臨まれていることがわかった。制度を活かすのはやはり人であるということを再認識した。


埼玉県戸田市議会
議員の皆さま
稲穂小へおこしいただき
ありがとうございます
学校長

平成会視察報告書

（日　時）平成３０年７月２４日（火）

午前９時３０分から１１時３０分

（テーマ）札幌市のパークゴルフの管理運営について

９；３０～１０：３０まで札幌市役所建設局みどりの管理課職員より札幌市のパークゴルフ場の管理運営について説明を受けた。

その後、市内中央区にある豊平川緑地パークゴルフ場に移動し、現地視察を行い指定管理の担当者より直接話を伺った。

特に参考になったのは、利用者の意見がいたるところに取り入れられているところである。

戸田市においても、今後利用者が使いやすくみんなから愛されるパークゴルフ場とするために、常に利用者と意見交換を行いみんなに愛されるパークゴルフ場にしていく必要があると思った。

山崎雅俊

（札幌市役所）

（札幌市役所内会議室）

（札幌市営豊平川緑地パークゴルフ場）

（札幌市営豊平川緑地パークゴルフ場管理棟前にて）

第952号
受 30.11.30 付
議会事務局

第1号様式・その1（第4条関係）

戸田市議会研修・視察報告書(会派名： 平成会)

H30年11月30日

三浦芳一 議長 様　　報告者氏名 峯岸義雄

実施日	平成30年11月5日(月) ～ 平成30年11月6日(火)　1泊 2日
参加者	1 伊東秀浩　6 2 山崎雅俊　7 3 斎藤直子　8 4 峯岸義雄　9 5 林冬彦　10 合計 5 人
視察先・目的	視察先　目的 1 名古屋市役所　・子ども食堂について 2 豊橋市役所　・総合型地域スポーツクラブについて 3 4 5 6
宿泊場所	1 エクセルイン名古屋 2 3
費用	宿泊費（1泊1食） 39,000 円　夕食代 25,000 円 交通費 122,040 円　昼食代 16,340 円 その他 4,752 円　合計 207,132 円

平成会視察報告書（担当：山崎雅俊）

（視察日時）２０１８年１１月５日（月）

１４時～１６時

（視察先）　名古屋市役所

（テーマ）　子ども食堂について

名古屋市では、子どもの孤食を防止し、子どもが安心して食事ができる機会を提供することを通じて、子どもの健やかな育ちを支援する取り組みである「子ども食堂」を推進するため

（１）市補助事業として子ども食堂開設助成金の交付

（２）子ども食堂の啓発を目的としたシンポジウム等の実施

（３）子ども食堂実践者同士のネットワークづくり

（４）子ども食堂運営費助成金の交付などを実施している。

２０１７年度は市内１６区において４６か所の子ども食堂が開設されており、さらに開設助成金１７件、運営費助成金６件が交付されている。

今年度は２回の連絡会を開催し、子ども食堂フォーラムの開催も予定されている。

今後戸田市においても子ども食堂の需要は増してきており、早急に設立に向け助成金制度や運営組織設立のための支援を立ち上げるべきである。

総合型スポーツクラブについて

文化・スポーツ文化部「スポーツのまち」づくり課
主幹 石川和志　　鈴木麻奈未
議会事務局議事課　　課長補佐 杉浦寿実　　鈴木真太郎

スポーツ課 から
市長部局に移ったのを期に「スポーツのまち」づくり課に2年前に変更
◆ 資料１ に沿って説明
子どもの体力向上 全国最下位
→ スポーツって楽しいなと思ってもらえる入口づくりを模索
→ スポーツ鬼ごっこ 全ての小学校で実施

ご当地版ラジオ体操か「豊橋弁ラジオ体操」の普及
声は市役所職員（バンドのメンバー） 市役所でもやっている
市役所の近くでも毎朝100名ほど参加

総合型スポーツクラブの拡充
障害者・高齢者のスポーツ振興
→ 車椅子競技を重視
→ リトアニア共和国パラリンピックの練習誘致
ニュースポーツの普及

競技力向上の授業を学校で実施
スポーツ顕彰制度の充実
スポーツ交流
→ マラソン大会 優勝者 →ドイツのマラソン大会に出場
→ 近隣自治体とも共同実施

スポーツ施設の計画的な改修

→コンセプト「選手を育てる陸上競技場にしましょう」
→ 一階にトレーニングセンターを設置
年間パスポート購入者 想定を上回る

穂の国・豊橋ハーフマラソン 申込開始すぐに満杯に
みなとシティマラソン 4000人を超える参加者
渥美半島駅伝 事故で中断していたが再開
FAN NIGHT RUN 動物園で実施 仮装も可
フルマラソンの実施も「陸王」撮影をきっかけに検討

◆ 資料２「豊橋市総合型スポーツクラブについて」を基に説明

スポーツ推進員が主体となって
1200メートルリレー 小学生から高齢者まで多世代で参加

いきいきサークル

★ FINSスポーツクラブ
地域住民を対象にした大会を実施

★ RYOZスポーツクラブ
NPO法人格を有した唯一のクラブ

★ 東陽いきいきスポーツクラブ
各地域で活躍し退任されたスポーツ推進員も参加

★SKITSクラブ
文化活動にも力を入れている
だから名称にスポーツがない

★クラブKOZOTTE

スポーツ教室を充実
totoを活用

● 先行オープンした4クラブの課題
学校では金銭授受が難しい
リーダーは60歳以上

これらの課題を踏まえて、KOZOTTEクラブでは対応した

KOZOTTEの特徴
すべての競技はスポーツ鬼ごっこにその要素が含まれる

● 行政からの支援

平成19年度から受益者負担という観点で補助金は設立後3年間と定めた
KOZOTTEはtoto助成を3年間活用

● 今後の総合型スポーツクラブに求められるもの
10箇所の体育館を拠点に10の総合型スポーツクラブを作りたい

●今こそ総合型スポーツクラブが必要

少子化問題
教員の多忙化問題
コミュニティ力低下問題
ニート・引きこもり問題
↑ニート・引きこもりの人は「地域の大人に世話になった経験が希薄」という 調査結果

パワハラ問題

◆ 質疑応答

学校の部活廃止への抵抗に関して
学校開放事業・総合型スポーツクラブ推進のやり方について
年会費などの設定は
サークルやスクールの内容は
総合型になった場合、教育委員会の指導の及ぶ範囲は
パワハラ相談の窓口は
体育教会との関係は

所感　戸田市に総合型スポーツクラブを立ち上げようとしたが、理想的な姿とは言えない中スタートした。
今こそ、超高齢社会を迎える状況の中、なぜ必要か、重要性を知ってもらう意味でも、立ち上げるべきだと感じた。
しかも、コミュニティ・スクールとの連携の目玉にもなると考える。
また、地域デビューが、定年後ではなく、若年期からはじめ地域力アップに繋げる観点からも考えるべきだと感じた。

第1号様式・その1（第4条関係）

第1186号
受 31.2.13 付
議会事務局

戸田市議会研修・視察報告書(会派名： 平成会)

H.31 年 2 月 13日

遠藤英樹 議長 様　　報告者氏名

実施日	平成31年 1 月24日(木) ～ 平成31年 1 月25日(金)　1 泊 2 日	
参加者	1 伊東秀浩　6 2 山崎雅俊　7 3 斉藤直子　8 4 峯岸義雄　9 5 林 冬彦　10　　合計 5 人	
視察先・目的	視察先　　目的 1 四日市市役所　　○「議会におけるICT化とタブレット導入のその後」 2 松阪市健康センターはるる　　○「松阪版ネウボラ」 3 4 5 6	
宿泊場所	1 ホテルAU松阪 2 3	
費用	宿泊費（1泊 1食） 36,500 円	夕食代 25,000 円
	交通費 124,140 円	昼食代 11,336 円
	その他 5,184 円	合計 202,160 円

平成31年2月6日（水）

平成会視察報告書　一日目　四日市市議会（愛知県）

◆期　日：平成31年1月24日（木）13時30分から15時まで
◆場　所：愛知県四日市市議会
◆出席者：四日市市議会副議長 加藤清助氏
四日市市議会議員 早川新平氏
四日市市次長兼議事課長 山路昇
四日市市議事課 広報広聴係長 中村友哉
平成会　伊東秀浩　山崎雅俊　斎藤直子　峯岸義雄　林冬彦
◆テーマ：議会改革・議会におけるタブレット活用について
◆内　容：

① 四日市市議会副議長 加藤清助氏から挨拶があった。

② 平成会団長　伊東秀浩から戸田市の紹介があった。
（加藤清助氏は公務のため退席）

③四日市市次長兼議事課長 山路昇氏から、「四日市市のあらまし（平成30年度）」について説明があった。
※「四日市市のあらまし（平成30年度）」については、別途PDFを視察前にいただいており、平成会各人のタブレットにインストールしてあった。

④議会改革やタブレット活用についての説明は、実際に携わった議員から生の声で説明したほうがよいだろうということで、四日市市議会議員早川新平氏にから、資料「四日市市市議会の改革について」に基づき説明があり、質疑応答となった。
※「四日市市市議会の改革について」については、別途PDFを視察前にいただいており、平成会各人のタブレットにインストールしてあった。

＜四日市市議会の議会改革について＞経緯と実施している内容

（議会の活性化に向けての取り組み）

・議案聴取会の実施
・市外郭団体審議会
・市政活性化推進等議員懇談会（市活懇）
・議員政策研究会
・議会活性化検討会
・正副議長選挙における立候補制の導入
・一般質問の時間制限の緩和
・ 地方自治法 第96 条第２項の活用
・議員提案による政策条例制定改正への取り組み
・予算・決算議案の審査方法
・一問一答方式の採用、質問者席の設置（対面式）
・マニフェスト大賞審査委員会特別賞
・通年議会
・反問権
・文書質問
・ 各種委員会、審議会等への参画の見直し
・専門的知見の活用
・政策提言
・各定例月議会における議案に対する意見募集
・ 第９回マニフェスト大賞優秀成果賞
・常任委員会年間白書の作成
・議会改革特別委員会の設置

（議会の透明化に向けての取り組み）

・議会報の充実
・委員会等の公開
・委員会室へのマイク設備、傍聴用テレビカメラの設置
・議会ホームページの開設
・本会議のテレビ放送
・四日市市議会政治倫理要綱の制定
・常任委員会の開催方法の変更
・市議会情報化検討委員会

・議会録画映像の貸出
・本会議、委員会のＦＭ放送
・市議会モニターの設置
・広報広聴委員会
・シティ・ミーティングの開催
・傍聴手続きの簡素化
・議会報告会の開催
・議案の表決の公表
・手話通訳の実施
・議長の定例記者会見
・議会報告会、シティミーティングにおける市民意見のフィードバックについて
・委員会のインターネット中継
・議会の見える化検討会設置
・タブレット端末の導入
・大型スクリーン・採決システムの設置
・フェイスブックの開始
・会議用システムの導入
・政務活動費の後払い方式への変更

＜タブレット活用について＞

・四日市市議会における議会改革に関しては、「通年議会」を採用、
・四日市市議会では、各議員に公費でパソコン１台、タブレット１台を貸与している。
・タブレットのサイズは、戸田市議会議員のタブレット（12.9インチ）より小さい11インチサイズの iPad。
・平成28年にタブレットを貸与して、まず活用したのは、議会事務局からのメール連絡。
・平成29年２月に会議用システム（富士ソフトの moreNOTE）を導入し、議会によるペーパレス化を目指した。
・同時に、議場に大型スクリーンを設置し、議員のタブレットから大型スクリーンに画像を投影できるようにした。
・タブレット導入後に全体研修を１回開催。
・会議システム（moreNOTE）導入後は事務局が各会派ごとにまわって使い方指導を行った

・タブレットは議会資料の閲覧が主な利用方法であり、会派毎の共有フォルダ設置などはしていない
・実質はタブレットからスマホやパソコンにデータ転送して、議員はパソコンを使っている
・会議システムの採用については、SideBooks と more ノートの二つの候補があったが、値段が安かった moreNOTE を採用
・紙資料については、予算書など厚いもののみを現在も併用している
・ペーパレス化の効果は数値では出していない
・個人的な感覚では。むしろ紙だけ方がマシだったかもしれない

⑤質疑応答のあと、平成会幹事長山崎雅俊より謝辞を申し上げた。

◆考　察：

四日市市議会は「日本一の議会を目指そう」という目標をたて、議会基本条例を制定し、議会主導で議会改革を進めた。議会も「通年議会」を採用したり、議会会期以外での「文書質問」を採用したり、「議員提案による政策条例制定改正への取り組み」を積極的に行ったりなど、正直、戸田市議会の現状よりもさらに先を進んでいる感がある。大いに参考にすべきである。

地元のケーブルテレビや FM ラジオ局と提携して、本議会のみならず全委員会の映像や音声を配信しているので、議会においても緊張感があると思れ、また、あわせて市内各地で「シティミーティング」を開催することで、議会にたいする市民の関心を養っているところに特徴があった。

タブレット活用については、タブレットのサイズが小さいということもあり、各議員はデータをパソコンに転送して使うスタイルが主になっている。議会事務局とのデータの受け渡しや、議場における資料提示（大型スクリーンへの投影）に使うだけであり、結果としてペーパレス化についてもそれほど効果を感じていないという議員の意見もあり、この点については戸田市議会が大型タブレットを採用したことがよかったと思われた。ただし、議場の大型スクリーンへの投射については、戸田市議会でも検討することが望ましいと思った。

（報告者：林冬彦）

四日市市総合会館

平成会視察報告書　2日目　「松阪版ネウボラ」について

◆期　日：平成31年1月25日(金)10:00～11:45
◆場　所：松阪市健康センターはるる
◆出席者：松阪市健康福祉部健康づくり課
白藤哲央　課長事務取扱
西浦有一　課長補佐
糸川千久佐　保健予防・感染症対策担当監
森 君代　保健予防係主幹
伊東秀浩 山崎雅俊 斎藤直子 峯岸義雄 林冬彦

『内容説明』

松阪版ネウボラの拠点施設である健康センター「はるる」にて説明を受ける。施設内に子育て世代包括支援センターを設置するなど総合的相談支援に取組でいる。
「はるる」は、市民が集まり、活躍できる、元気づくりの拠点として、保健の専門的機能と一次救急の機能に加え、誰もが気軽に立ち寄れ、ふれあいや交流ができる“人を中心”にした施設をめざしているとのこと。
また、安心して子育てができるよう妊娠から子育て期の途切れない支援
～松阪版ネウボラ～の拠点としている。
全ての説明を終えた後施設を案内していただく。

子育て世代包括支援センター設置の経緯・背景として
・母子保健相談支援業務
・産後ケア事業が手薄だったことから力を入れたく、その拠点とする
・国がモデルとするフィンランド「ネウボラ」に
　先進市として名張市、津市、和光市を研究する
・松阪市の母子保健事業
　事業的背景　三重県中部医療懇で妊娠出産包括支援事業の開始

松阪市ネウボラの骨子

・個別マネジメントの充実

松阪市ハイリスク率 24%と高い

中にいる職員の資質向上に努める

「子育てナビ」を渡し 全妊婦に面接

さりげない形で関わっていけるようにソフトな感じのツール

「子育て応援情報」 以前は文字ばかりのかたい内容の冊子を変更

今年度から「子育てアプリ」を利用

赤ちゃん訪問は100%実施し、情報はシステム化し複数機関で共有

ネウボラ会議　母子保健主任会議 月一回

ケースが重くなっているので一人で抱えることなくチームで対応

(チームはチェンジしながら経験を積ましている)

「ナビ」とシステムを連動させ、ペーパーをまとめなおすことなく、

自動的に反映されるよう効率的に情報共有できるようにした。

健康管理システム データ共有 システム化できたのが大きかった。

・妊娠期から子育てを支える相談の場、学びの場の充実

プレママ教室、パパママ講習

気軽に来てもらうために、ほうじ茶ラテを用意

見晴らしの良い場所で飲んだりしてリラックスしてもらう

子育て期の教室、土日の教室やすくすくスタジオにて寝転びアートで

インスタを楽しんでもらう等工夫

・身近な子育ての場を充実

コンシュルジュ (案内と相談受け)

子育てコンシュルジュ(ボランティアを入れ、 かかわってもらう)

市内に子育て支援施設13箇所に応援

こども食堂も視野に入れ、

自治会との連携があり、住民協議会の交付金を生かした取組もあるとのこと。

『所感』

自然の光や風が室内に入ってくるよう、中庭を中心とした明るく開放的な建物で、子どもの施設とあって2階に事務所を設置して全施設を見渡せるようになっていた。気軽に訪れる雰囲気もあり、入り口では、保健師等の専門家がコンシェルジェとして、すぐに応対してくれるため簡単な相談もその場できるろころが心強いと感じた。

松阪産材の杉を利用されていて、角など丸みをもたせていたり、さり気なく見守ることのできたり、温かみのある居場所空間だった。

ここにくれば、相談でき、居場所となり、誰かとコミュニケーションがとれることから、心身ともに安心できる子育ての総合窓口として期待できると感じた。

人材の確保と育成も重要で、チームとして取り組む姿が想像でき、戸田市にも総合窓口として機能しているのか確認し、より良いものになるよう働きかけたいと感じた。